

単

四年 筆順、... 当 当 単
画数 9
オン タン
クン

成り立ち



獵師^{リョウシ}がけものをしとめるために使う「弾き弓^{弾弓}」の形を表した字です。「弾^{たま}」がたくさんつまっていて、えものを「ただ一発^{ただいっぱつ}」でしとめることができるために、「ただ一つ」という意味に使われるようになりました。例 単一、単独、単身、単価。

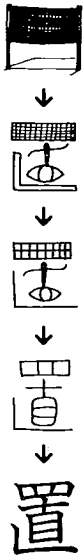
そのため、「弾き弓」を表す字は、「単」に「弓」を加えて「弾」という字にしましたが、この字が「弾く」とか「弾^{たま}」という意味に使われるようになり、「弾弓^{弾弓}」と書くようになりました。

また、「単単（手がる）」というように使い方もされています。例 單純、單調。

置

四年 筆順、... 甲 置 置
画数 13
オン チ
クン お 置 く

成り立ち



「あみ」の形を表した「^{あみ}」と、「まつすぐ」という意味の「直（2195）」とを組み合わせて作った字です。

あみをはる場合には、あみがよじれないように（まつすぐ）はることに一番気を使います。それで、「^{あみ}」と「直」とで「あみをはりおくこと」を表しました。

今は、あみにかんけいなく、物を「すえおく」ことの意味に使います。例 設置、安置、配置、常置。

「そのままにしておく」の「おく」という意味にも使います。例 放置。

また、「物のある所」の意味や「人のいる所」の意味にも使います。例 位置。

使い方

▽ 単調^{たんてう}な子守唄^{こもりうた}を聞いていると、眠^{ねむ}くなります。子守唄はメロディーが単純^{たんじゆん}で、繰り返^{くりかえ}しが多いので、つい眠^{ねむ}気をさそわれてしまうのです。

熟語例

▽ 単一^{たんいつ}（ただ一つだけであること。また、混じりけがないこと。「単一民族^{たんいつしゆく}でできた国家」などというふうにつかいます。）

▽ 単独^{たんどく}（ただ一つだけであること。また、ただ一人だけであること。「単独でエベレストに登^{のぼ}った」などというふうにつかいます。）

▽ 単身^{たんしん}（連れなして、ただ一人であること。「近頃^{ちかごろ}は単身赴任^{しゆじん}者が多くなつた」などというふうにつかいます。）

▽ 単価^{たんか}（品物^{しなぶつ}の一つあたりの価格。「単価は百円だが、一ダースなら千円で買える」などというふうにつかいます。）

▽ 單純^{たんじゆん}（簡単なこと。混じりけがないこと。また、考え方が幼稚^{ちゆうい}なことをいいます。）

▽ 單調^{たんてう}（変化がなく、一本調子なこと。「單調なメロディー」などというふうにつかいます。）

使い方

▽ 近頃^{ちかごろ}は自転車^{じてんしゃ}を道路^{どうろ}に放置^{ほうち}しておく人がふえたので、駅^{えき}の近く^{ちか}に自転車置場^{じてんしゃおきば}を設置^{ていし}することになりました。

熟語例

▽ 設置^{ていし}（設^{もう}けて置くこと。「校舎^{こうしや}に火災報知器^{かさいほうちき}を設置した」などというふうにつかいます。）

▽ 安置^{あんじ}（神仏^{しんぶつ}の像^{ざう}などを、大切にすえて置くこと。「台座^{たいざ}に安置^{あんじ}された仏像^{ぶつざう}は、ほほえみをうかべているように見えました」などというふうにつかいます。）

▽ 配置^{はいち}（人や物をそれぞれの場所に配^{くわ}って置くこと。「守備兵^{しゆびへい}を物陰^{ものかげ}に配置^{はいち}した」などというふうにつかいます。）

▽ 常置^{じょうち}（常に置くこと。「委員会^{いしんかい}を常置^{じょうち}して、問題^{もんたい}の解決^{かいげつ}にあたる」などというふうにつかいます。）

▽ 放置^{ほうち}（放^{ほう}って置くこと。）

▽ 位置^{いち}（物のある場所や人のいる所。「この位置^{いち}からでは部屋^{へや}の中は見えない」などというふうにつかいます。）

▽ 置場^{おきば}（置く場所）

▽ 置物^{おきもの}（置く物。とくに、床^{とこ}の間^まなどに置く、飾り物のことをいいます。）